



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 「市民病院の医師確保に向けた取り組みと新病院名称募集について」

新市民病院建設工事の着工から、早いもので1年が経ちました。浄化槽などの設置に始まり、病院棟の基礎躯体工事と、病院周辺にお住まいの皆さまをはじめ関係者の皆さまのご理解・ご協力のおかげで、作業は順調に進んでおります。先月は、私自身が現場に出向き、大地震の揺れを吸収する免震装置を視察しました。2021年春の開院に向け、引き続き無事故・無災害で工事が進捗するよう努めてまいります。



建設中の新市民病院

ところで、市民の皆さまからは「新病院の建設も大事だが医師確保はもっと大切」「医師確保のためにどんな努力をしているのか」といったご質問をよく承ります。そこで今月は、医師確保に向けた取り組みについてお話ししたいと思います。

現在の常勤医師数は、昨年度より7人増えて89人(うち、京都大と浜松医大の医局出身者はほぼ同数、合わせて50人)。新病院開院3年後(2023年度)には、100人の医師体制を目指しています。100人を目標とする根拠には、平成25年度地方公営企業年鑑から、療養病床や精神病床を持たない、病床数が400床以上500床未満の自治体病院のうち、実質収益対経常費用比率が90%以上ある病院の医師数を参考としました。この目標を達成するために、大学の医局から安定的な医師派遣が不可欠であることから、市長・病院事業管理者・院長などが京都大や浜松医大などに足繁く訪問し、学長・学部長・附属病院長・各教授と面談し、医師の派遣をお願いしています。

ところが、あらゆる努力をしても医師確保が難しいのは、大都市圏への医師の一極集中の結果、地方では医師1人への負担が大きく、十分な休みも取れない可能性が高くなるなど、過重な勤務負担に対する懸念が大きいからといわれています。これらの課題については、あらゆる対策を通じ、「医師の勤務環境の改善に本気で取り組んでいる」という姿勢を示していくことが重要であり、手術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」の導入など先進医療機器の拡充、初期臨床研修医の給与改善、医師住宅のリニューアルなどに取り組んできました。今後、新病院の完成により、医師・看護師の勤務環境はさらに向上します。

他にも、医師確保対策として「医学生修学資金貸与制度」があります。奨学金月額26万円を最長6年間(総額1,872万円)給付しています。国家試験に合格した後、島田市民病院に所定の年数を勤務すれば、奨学金の返済を免除する制度です。

ところで静岡県は、人口10万人あたりの医師数が207.79人(全国38位)と少なく、志太榛原地区は、更に少ない172.78人であることをご存知でしょうか。これからの公立病院には、お互いの連携により、診療科目を補い合い、機能分化させていくことが求められています。ちなみに島田市民病院では、循環器内科や脳神経外科の医師数が充実しており、より専門性の高い診療を行っています。

この度、新病院への関心を高め、皆さまに愛着を持っていただくために、名称を広く募集することにしました(詳細は3ページ参照)。ぜひ、皆さまのアイデアをお寄せください。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

金谷牧の原地区コミュニティセンターさんららむで、5月1日に「新元号を祝う会」を開催しました。令和への改元を喜びとともに、平成を振り返り、この歴史的な日を地域住民の皆さんとお祝いしました。

会では、地元書家である石川景碩さんによる書道パフォーマンスが行われ、約2畳の紙に大きな「令和」の文字が力強く書き上げられました。さらに、令和の出典元となった「万葉集」の梅の花の歌32首の序文を書いた作品も寄

贈してくださいました。この作品と「令和」の書は、さんららむに飾ってありますので、ぜひご覧ください。



他にも、花の定植・記念植樹を行ったり、「リアル野球盤」を体験したりして平成を振り返り、歴史に残る1日を皆さんと過ごしました。(牧の原自治会会長 加藤洋一さん)